日本における『千夜一夜物語』の受容史 (1)
The Reception of the "One Thousand and One Nights" on Japan (1)
日本における「千夜一夜物語」の受容史（1）
The Reception of the "One Thousand and One Nights" on Japan (1)

ナガラ・ハフィズ Nagura HAFIZU

I. はじめに

「千夜一夜物語」はアラブ文化の経緯から英語・フランス語・ドイツ語・日本語など諸言語への翻訳を通じて、世界的な文化界に幅広く多様な形で広められた。この翻訳版が多言語に翻訳されたことが既に現れており、「千夜一夜物語」が世界にどのように理解され、原典がどのように変化したのか、その経緯はどういったのか、研究の対象となった。さらに「千夜一夜物語」研究は、東欧と西欧との、あるいは中東と日本などアジア諸国との異文化間交流を促した。その上、「千夜一夜物語」の翻訳版は文学作品としての他に、芸術の一表現である演劇・映画・アニメなどにも大きな影響を与えた。

本稿では、まず、アラブ世界における「千夜一夜物語」の成立歴及びこの翻訳版の構成と特徴のどのようなものであったのかを、簡潔に明らかにする。次いで、近代・現代日本にあって、「千夜一夜物語」の翻訳版とこの物語が日本人の中東世界イメージをどのように形成したのかを明らかにし、西欧での中東世界イメージとの比較を行いたい。

II. 「千夜一夜物語」の成立歴及び構成と特徴

「千夜一夜物語」は、イスラム史の中世・アッパーズ朝時代（750-1258年）に編纂された物語である。文学としては、当時の人々の振舞い、日常生活及び社会的・政治的環境を表す文芸文学に分類される。8世紀から13世紀にかけてのイスラム朝でアッパーズ朝は、他のイスラム朝に比べれば、ペルシア語やギリシア語の書籍をアラビア語へ翻訳し、物語・詩の創作、さらには音楽や舞踊を含む文化・芸術の黄金時代を築いたと言われる。

「千夜一夜物語」の構成は、それぞれ長編物語及び短編物語に区分され、長編物語の中からさらに多くの物語を編成されている。その形式の起源はインドをペルシアに由来すると言われる。なぜならば、「千夜一夜物語」はアラブ文学だけを代表するものではなく、社会習慣が発展を遂げたアッパーズ朝の諸相を描かれているからである。従って、「千夜一夜物語」を作り上げた人々をアラブ民族として一括するのではなく、イラン系やトルコ系などの人々の貢献を視野に入れるべきである。「千夜一夜物語」における非アラブ民族の貢献は、話題集全体の価値を上げ、当時のアラブ民族と非アラブ民族の共存及び文化交流を表す。

また、「千夜一夜物語」は一つの書物であるが、9世紀から19世紀に至る長い時間にわたり綿密な体裁を経、口承・書寫双方の経緯によって民衆の間に伝承されてきたイスラム世界の一大文化遺産でもある。

「千夜一夜物語」の構想は、男女が共に囲んだ時に女性が話す物語の集まりであり、シェハザードが毎夜物語を語る背景には、男女の性的情景が展開しているのである。話題集のいわゆる「枠物語」のあらすじは、以下の通りである。

昔サッダン朝ベルシアにシャハリーヤールと言う名の勇猛な大王がいた。シャハザードという弟がおり、二人はそれぞれの国を統治していた。ある日シャハザーマーン王は愛妻の王妃が黒人奴隷を手に持っているのを偶然目にしてしまい、その場で王妃を奴隷を切って捨てる。兄の所へ出掛けるとそこでまた別の王妃が黒人奴隷を手に目を疑うほどあましい肉体の戯れに酔いしれているのを目撃した。

そのことを告げられた兄シャハリーヤール王は、それを真実と知ると、失意のもと諸国を巡る旅に出る。それでも不貞を働く女達を見た彼は、この大地の上に一人として真剣な女はおらず、彼女はこの世に生かしておく必要のない生き物だ、と嘆き、夜ごとに処女を求めて夜カフェをさせ、夜明けると殺すようになった。大臣の娘シェハラザードがまずから夜カフェに立候補する。シェハラザードの歌があまりにもおもしろくて、王は殺す事が出来ず、その歌は千と一夜にわたって続いた。
われている。また、家楽優票団の上演作品のもととなったものに杉谷代水（1874-1915）の短篇「新譜アラビアンナイト」（下巻二冊、1915-16年）がある。県那志連が昭和2年に読み、その感銘を記しているものには、中島孤島の「新譜千一夜物語」（1924年）及びその改訂「アラビヤナイト」（1929年）、「アラビヤナイト」（1931年）がある。

永年齢署の読書以来21世紀に入った現在に至るまで、日本の文学史は130年間以上にわたり、「千夜一夜物語」を読むだけではなく、日本文学の様々な作品に活かし続けてきたのである。

第二次世界大戦後の多くの翻訳書のうち、作家たちが作品に生かしたという意味では、大倉正史「バートン版千一夜物語」（河出書房、1966-67年）及び豊島与志雄他「完訳千一夜物語」（初版1940-59年）がまず挙げられる。

なお、アラビア語原典からの本格的翻訳が現れたのは、ようやく前嶋信次・池田修の「ラビア・ナイト」（1966-92年）全18巻（平凡社、東洋文庫）の刊行によってである。東洋文庫版「アラビア・ナイト」の別巻として、前嶋訳の「アラジンとアリババ」は物語をアラビア語原典から翻訳、出版された。前嶋・池田訳の主たる底本はカルルツ第2版であるが、ブラーク版並びにイート・パス文字語日本語への録録も注意深く参照されている。

このように、前嶋信次・池田修訳「ラビア・ナイト」が現れるまで、「千夜一夜物語」のアラビア語原典からの直接訳は存在しなかった。即ち、近世から現代にかかわる日本では、西洋からの翻訳書のみが普及し、日本の文学や映画、「千夜一夜物語」のアラビア語原典からの直接の影響を受けることはなかった。

ここでの「隠者」とした「千夜一夜物語」の翻訳史は、明治初期から大正末期にかけての初期翻訳と、昭和前期から戦後までの後期翻訳との二分に分けられる。この時期の翻訳者原著は、「千夜一夜物語」の翻訳を研究したMia Gerhardtの言うように、ガランの「親のない物語」Galland's Orphan Storiesである。ここでの「親」とは、フランス語のガラン版に対するアラビア語原典を意味する。つまり「親のない物語」とは、ガラン版には収録されているものの、その原本をアラビア語原典に見出すことができない物語のことである。

日本における「千夜一夜物語」翻訳の初期は、永年齢署を初め、井上勤や杉谷代水による時代である。この時期の翻訳の特徴は、次のようである。

1 翻訳者は、「千夜一夜物語」の部分訳を取ったが、それらは全体の10％にも満たないものが殆どであった。
2 使用された原本は、始とガラン版の重訳に基づき、しかも訳び明の英語・仏語・独語語のいわゆる「ガラン版」Grub street editionであった。
このガラン版も「ガラン版」も、「ガラン版」に後述の翻訳の水準の低さが指摘されたものである。従って、それらに基づいた日本語訳の水準も当然低いものであった。
3 レイン版は英語の文体が解釈であったため、日本へは翻訳されずに、翻訳の際に参照されるだけで留まった。しかし、日本語訳への翻訳者はレイン版の挾絵には興味を持たず、それだけを訳書に取り入れた。
4 地名及び人名の誤記、文章の意味の誤訳などが多い。しかしながら、日本において、これらの翻訳書は、文学者及び一般読者に広く「千夜一夜物語」を紹介し、彼らをこの物語の魅力に引き付けることに貢献した。

近代日本初期において、「千夜一夜物語」を翻訳する底本として利用されたのは、主にガラン版やその重訳であった。その理由はそれまで、アラビア語原典がまだ訳されておらず、ガラン版の出版が世の中に劇的な波紋を投げかけたからである。

このように、明治時代における日本語への翻訳は、ガラン版に基づいた英語若しくはドイツ語訳からの重訳であり、これが日本における「千夜一夜物語」の普及及び受容に大きな役割を果した。

さらに、これらの翻訳は、文学及び映画の分野にも大きな影響を与えた。例えば、尾谷小波（1870-1933）の小説「馬鹿女（1906年）及び木下大太郎（1885-1915）の映画「医師トオランの首（1910年）と「十一人の首（1912年）などは、さまざまなこれらの翻訳の影響に基づいた作品であるといえよう。そして、文学の分野でいえば、尾崎紅縞（1868-1903）の「やまと昭四（1893年）や奥沢花（1873-1939）の「名水記（1900年）」が挙げられる。

千夜一夜物語の日本語翻訳書として、1915年から1933年までに21巻が刊行され、学術的文献叢書の理想的形態として日本の童話文学史にさわめて大きな役割を演じたもののに、著者・木下大太郎の「模範家庭文庫」がある。その原テキストとして用いられているのは、杉谷代水（1874-1915）の競争「新譜アラビヤナイト」（上下二冊、1915-16年）である。杉谷は、1900年に県内運輸（1859-1935）
千夜一夜物語は他の女性たちをシャハイール語の不当な行為から救うと同時に、この千一夜に続いて話された内容が「千夜一夜物語」を構成している。

しかししながら、シェハラザードにとっては、彼女自身はもちろん、生命を脅かされている奴隷全体を救うだけでなく、運命をはらいのけ、女性的なものの正当な権利を回復させ、いかなるもの女性に打
ち勝つことはできない、ということを実証することが課題なのであった。

つまり「千夜一夜物語」は、性の歴史の回想という意味によって家父長制に打ち勝った架空の物語である。非常に大きな満足を得た後、性的欲求がよみがえったシャハイール王は、効果的で楽しめる点でイスラムの教えに一致しているフェミニズムに踏
歩したのである。

ガストン・バシュラールは、「心理学」には、精神分析について語るように、リズム分析について語る場所がある。言うまでもなく、特に愛欲やうつ病に訴む心は、リズミカルな生活によって、リズミカルな思考によって、リズミカルな注意と完備によっていささか美を必要とするからだ、という、リズム分析の視点からシェハラザードの役割を分析し評価した。彼女は、物語によって人の心を導く新しいコミュニケーションの方法を見出し、一種の精神論的療法をシャハイ
ール王に実行したのである。

エロスは強制されたり、急がされたり、束縛されたりすることを嫌うものである。素晴らしいシャハイール王は、バシュラールの指摘するように、「多様な世俗生活をうまく調整することによって、われわれの、陽気で、変化した、詩的な安息が生まれる。」という日常性を回復することができた。「千
夜一夜物語」のエロティシズムは、苦悩の廃絶を宣言し、苦悩を乗り越え、生きる欲求の発見を助けることを可能にした永遠の想像力をもつものであった。

このように、「千夜一夜物語」は、読者のエロティシズムのただ中にいるが、それは明らかな意味を持ち、かつリガナルなフェミニズムを塑しせかける「千夜一夜物語」は、女性解放から、断固たるフェミニズムにいたるまでのプロセスについて、注目すべき論理を展開している。

3. 「千夜一夜物語」の日本語への翻訳史概要

翻訳は、異なる母国語に踏まれた文化と思想との観点を変えるための重要な手段である。そして、異なる母国語間の文化交流を促進するものでもある。

つまり、翻訳により互いに異なる文化を多様で活気ある地域が理解し合い、人々が相互の学びや交流等の分野における交流を深めるのである。

本節では、「千夜一夜物語」の翻訳活動がアラブ世界以外の国や地域の文学及び演劇にどのような影響を及ぼし、それが翻訳によって受領した「千
夜一夜物語」の理解に、どの程度貢献したのかを検討する。

まず、ヨーロッパ諸国語から誘導された「千夜一夜物語」の日本語翻訳を取り扱い、以下の点を明らかにする。

1. 「千夜一夜物語」の日本語翻訳とアラビア語原典とは、どのような類似点と相違点があるか。
2. 「千夜一夜物語」の日本語翻訳はヨーロッパ諸国


3. 「千夜一夜物語」の日本語翻訳は、日本文の現代演劇にどのような変化を及ぼしたのか。

なお、本節では、「千夜一夜物語」の全ての日本語翻訳訳を取扱うわけではなく、近代日本における初翻訳訳と、第二次世界大戦後の重要な定刻のうち、ヨーロッパ語の訳著及びアラビア語原典に、より忠実でかつ日本人の作家たちが著し、大きな影響を受けたものを取り上げることにする。なぜなら、私の研究テーマである日本の現代作家たちは、このような翻訳訳を通じて「千夜一夜物語」を知り、その内容を自らの作品に応用したかである。

「千夜一夜物語」の翻訳訳史を概観するにあたって、第二次世界大戦の戦前期と戦後期という時期区分を設定する。なぜなら、戦前と戦後では、日本の社会的通念や政治・法制度の違いなどによって、「千


2. 第二次世界大戦前後の翻訳とその歴史的背景

「千夜一夜物語」の日本語への翻訳で重要なものを挙げると、本塚秀樹の「開封伝奇・東西伝奇」(1875年) が最初の日本語訳であり著者が著者としてあった。次に、井上徹の「世界文化史」(1883年) が、東京外交・思想家東京都立新興論文作家たちに影響を与え、彼らの作品に影響を及ぼした。
の着物で扁平な顔つきの僧侶が入っている。
さて、次に相和前篇から第二次世界大戦までの
展開をみると、この時期の「千夜一夜物語」
の翻訳の特徴は以下のようである。

1. レイン版が大抵として利用され、殆どその完
成の形をとっている。
2. さらに、もしの風俗・習慣や物語の類に関する詳
細の注が付されており、民俗学及び物語文学に興
味を抱く読者にも役立つものとなっている。
3. 翻訳者がアラビア語原本を直接参照できなかった
ために、文章の加筆、省略、誤解及び人名や地名
の間違いが存在する。

まず、中島孤島の翻訳者を取り上げるが、杉谷訳の
著は1916年、同じ「秘訣家文学」の第三巻として
「グリム物語集」の訳を刊行した中島孤島もまた、
児童向け「千夜一夜物語」普及の上で、大きな貢献
をしている。

中島孤島（1878-1946）は、杉谷と同様、円内道
産門前生の松田大学英文学の出身者であり、以後も、
同校黒板に設けられた同門の人々が活躍している。
中
中島孤島（1878-1946）は、杉谷と同様、円内道
産門前生の松田大学英文学の出身者であり、以後も、
同校黒板に設けられた同門の人々が活躍している。

中


中

島孤島は「新訳千一夜物語」（1924年）を出版し、
5年後には「アラビヤンナイト」（1929年）、さら
に1931年にはカラー塗絵入りの「アラビヤンナ
イート」（童文版の「世界童話全集」普及版）へと
発展させてゆくことになる。

この「新訳千一夜物語」の増補版といえるのが、
近代社「世界童話全集」の一環として1929年に刊
行された中島孤島訳「アラビヤンナイト」である。

著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。

「アラビヤン・ナイト」は本来大人の話を
象とした童話集で、どうしても童話にはならない
ような話も混じるのです。そこで原作は
著者原作の「アラビヤンナイト解説」で、孤島は、
この風俗集の成立やヨーロッパへの紹介の歴史を簡
単に概観したのち、原本について次のように述べて
いる。
1929年にはレイン版を原本として使い、1巻を刊行された。単純な数字の前後にある小さな表現、フレーズ表現にようやくする表現などを削り去り、策定本では、森田はきわめて正確で、高水準の語である。レイン版は、次回原本として使用したが、日出と森田の翻訳者批評は学識の深さ、深いものである。なぜなら、レイン版は、原本のギャラント版全訳の内容と異なり、1932年にカイロで刊行されたアプト版である。「ブーラーク版」に基づく学問的かつ、書体的資料であると言われるからである。レイン版は「ブーラーク版」の全体の5分の2ほどに収まる。森田の翻訳者批評からの削除や変更が見られるということは、レイン版の全訳を伝えたと言いたいが、『千夜一夜物語』の意味を知るには「顕著な分量に限られ、かつ青少年に安心して読まれる」という側面がある。

森田は、レイン版にある唐朝の史料は前もって把握していた。つまり、彼は『凡例』で「はなはだ今世の第1巻の『新仏教論』の中では、お上の子供がその時は不倫の証を隠したものである。翻訳者はその仮訳を新たに隠したものである」と述べており、さらに、次のように言っている。「それは写本のない書物であるから、既述のことを手に入れるためには翻訳して得たもので、若者の演出を承認して得たものである。」

さらに、森田は、レイン版の原本には、バートン版で採用されている、『千一夜物語』に含まれている『夜月の話』（Futurama）という貴重な物語が『千一夜物語』に言及している事例を指摘している。

バートン版とアブラハム版の原本は、1巻を刊行された。「千一夜物語」の翻訳者は、彼の翻訳者批評を織り交ぜて、「千一夜物語」を『千一夜物語』に言及している事例を指摘している。バートン版とアブラハム版の原本は、1巻を刊行された。「千一夜物語」の翻訳者は、「千一夜物語」の翻訳者が採用していると表現されている。バートン版とアブラハム版の原本は、1巻を刊行された。「千一夜物語」の翻訳者は、彼の翻訳者批評を織り交ぜて、「千一夜物語」を『千一夜物語』に言及している事例を指摘している。
岩波文庫版の「解題」で佐藤正彰は、マルドリスが利用した「千夜一夜物語」の原本、即ち、フィリップ・アリビア語と文書化されたもの、と語換えを試みた。この語換えは、直接的な文献の提供者であると見なされる。「千夜一夜物語」の原本は、文献として、著者のために採用されたものである。これを元に、アリビア語版の「千夜一夜物語」を語換えしたものです。

しかし、語換えを通じているのは「序題」であり、それが「序題」である。「千夜一夜物語」は、その内容が、中世の西欧に伝来した物語である。この物語の発祥は、テュタフェルスの基礎から、アリビア語で語られたとされる。「千夜一夜物語」の翻訳版は、アリビア語版のものに基づいて作られたものである。この語換えの翻訳版は、イランに伝わり、ペルシアの名前がとられている。「千夜一夜物語」の研究者にとっても、この語換えの翻訳版は、重要な存在である。

マルドリスの「千夜一夜物語」の語換えは、アリビア語版の原本に基づいて作られたものである。これにより、アリビア語版の原本が、マルドリス版の原本として通されている。この語換えの翻訳版は、アリビア語版の原本を基に、マルドリスの語換え版として通されている。

このように、フランスの知識人と共に、日本を含む異文化もマルドリス版がアリビア語版の原本を基に、語換えを行っている。しかし、この語換えは、原本から翻訳版に至る過程が不明確である。なお、語換えは、原本から翻訳版への過程が不明確である。
対応しない物語や表現が数多く見られる。また、対応する物語が原典に掲載されてはいるものの、マルドリュスによる加筆で、既に対応する文章や語句が原典を覆っている箇所も少なくない。例えば、「剣道先生の死」を筆名で「小川」は主人公が行く先に到着した美しい女史の家に登場しているだけであるが、アラビア語原典ではなく「泉は流れて消えて湯に出、果物は枝につかずに枯れる」、「たとえこの世の愛関のこそ」と具体的記述になっている。

そして、マルドリュス独自の挿入や加筆の箇所は、岩波文庫版にそのまま採用されたのである。例えば「松本喜美が発見したように、岩波文庫版の第1巻所収の「オマール・アル・マネーン王とそのいすぎ二人の王子の物語」の物語「美しさの妖精ノザラト」Nozhour（ヌズボトゥ・ザマーン）がシャルカーンに語る「救王マダマ」の正義の物語や、二人のゲンダーンがダウルマカーンに語る五人の娘の進講の物語は、アラビア語原典のアラブ化版で変わった。そして、五人の娘を引く金星のいすぎが国名に加入する「詩人の王女」を語る物語と、マルドリュスによる創作である。

従って、マルドリュスの訳を改め、権威付けたフランス人文学者及び日本の訳者版、マルドリュス版をそのまま信頼した結果、アラビア語原典の「千一夜物語」と異なるものを読者に紹介してしまったことになる。

本論文とは別に取り上げられるが、この岩波文庫版の影響を強く受けた寺田剣司、アラビア語原典の「千一夜物語」に存在していない多くの箇所を彼の作品に利用してしまった。寺田剣司はマルドリュス版訳の「千一夜物語」を読み、「絵本・千一夜物語」と断面「千一夜物語」を書き上げた。これらの作品の中で、説話的な観点的場面や空想を誇張して描いているのである。

このように、マルドリュス版による独自の挿入や加筆が、そのまま受け流した結果、岩波文庫版「千一夜物語」は、アラビア語原典と違った形で描かれた部分を含んで仕上げたのである。

※大場正史訳の「パートン版 千一夜物語」（河出書房及びちくま文庫版）

これはパートン版の定本であり、版によって、それぞれ、全21巻、全12巻、全8巻として出版されるが、大場版は、絵本・千一夜物語出版の10年後、河出書房より出版した際には、角川文庫版本文にさらに箇所を増し、原作も大幅増やして出版した。そして、「補遺」からの抄訳は第8巻にまとめ、古沢岩美（1912-2000）のカラーページ及び単色の図解・絵伝を付している。

大場正史の角川文庫版が出版される以前に、戦後のパートン版訳の試みとして、全7巻の予定で刊行が始まった高倉大次郎訳「パートン版アラビア千一夜物語」（東京出版社、1948-49年）がある。これは、編集第1巻しか出版されなかった。

ベイン版は、千一夜物語のアラビア語の原典に比較的忠実に沿っているが、500部のみの出版で限定され、さらに完成度がなかったのなので、数々の問題を残していた。一方、パートン版は、新しい作の注を含む千一夜物語原典の正確な訳文、模倣的訳本として珍重され、高い支持を獲得したのである。なぜなら、パートン版は説話を通してアラブ人の生活や風俗・習慣などを巧みに追究したので、当時のイスラムの植民地政策を反映するのに貴重な物語となった。

大場正史版には、エドワード・レインの民俗学的考察書である「近代エジプト人の人風と習慣」（1964年）を訳した経験があることは言うまでもない。

大場版は、パートン版の原注を全て訳出し、同時に各巻の「説解」若しくは「読者のあとがき」において、主にパートンの情報を参照し、各物語の概要、アラブ人の風俗や習慣、千一夜物語の起源、そして、イスラム教の風俗などを解釈しようと試みた。

その中で、大場版は千一夜物語の性質について、次のように語っている。

これは、「千一夜物語」とは、千々なり読むために書かれた物語でなく、話し手が暗唱して人々に聞かせる物語であったところから、前に話しした物語のディテールを忘れ、前回の講話をも忘れずに再生しようとしている。千一夜物語をはじめ、「アマーモ・セイロディ代記」Secret Aboo-Zeyd「エズ・ザヒル代記」Secret Ezz-Zahirあるいは「アンテル物語」なども刊行されているが、それでもこれを暗唱して読むを諦めず物語的な講談は増えず、むしろ現在となっている。"アマーモ・セイロディ代記「講談師はジョアラと呼び、「エズ・ザヒル代記」のそれはモハディ、"アンテル物語「や千一夜物語あるいは"テレッセ・ニア代記"などのそれはアナティレで呼ばれている。
バートンは、このようなアラブ人の言葉であって、「自然的な人間は自然なものをとがめない」とか言及している。そして、バートンの考えを受けて、大場は、「千夜一夜物語」の愛普場面が描かれ、視覚の自然の中にあるアラブ人が直接的に、年次的に、千夜一夜物語の素晴らしい愛普場面の描かれ、アラブ人が生まれつき官能的で官能的な存在を、一般化した発見をしています。

このように大場は、「バートン数の千夜一夜物語」及び西欧の学者によるアラブ中東集団を通して、アラブ人に対する西欧文化の視点を豊かに、中立性に欠けた観点を形成したことは否定できない。

しかし、イギリスの東洋学者Orientalistであるレインとバートンの観点をそのまま受け入れたわけではない。大場は、「千夜一夜物語」における官能的で官能的なオリエンタルといったステレオタイプを受容しただけでなく、日本古典の伝統を含む、官能的特質を肯定的にとらえる伝統文化をも念頭においていったと思われる。

ただし、大場の翻訳には、バートン版の所を見られる誤訳、誤植をそのままで受け入れたため、物語を理解しがたいと感じる箇所が見受けられる。例えばバートンは「シンボル SSD」との訳あり、「アラブ語原文の略称またはquddama-huを、「自発」自身の前」が正しいのに「まずの前」と訳しておるこの誤りを踏襲し、大場も「誰の前」と訳してしまっている。さらに、バートン版の原文を完全に通読した多読として示される大場は、いかにレイン訳のまま訳したため、文章の意味に理解できず、個所を含んでいるのである。

ただし、東南アジアのルーム、アラビア語などに関する情報をできる参考資料がまだ存在しなかった当時の状況を考えれば、これはむしろよいことであるかもしれない。バートン版の理解の観点のためには、やはりこれらの専門知識を持った読者の方が不可欠であるといえる。

とはいえ、「千夜一夜物語」の興味を持つ、その後の作家は、大場正史の翻訳本を読んだ人の一人である。他に多くの人々は、この物語を読む。千夜一夜物語を語ることを多くの人々が翻訳をもとに、歌曲「オアシス・ナイト」を書き始めたことである。この翻訳を参照して、「砂漠」千夜一夜物語（1968年）及び歌曲「新宿版」千夜一夜物語（1968年）を試作したが、
前崎信次・池田修訳の『アラビアン・ナイト』
（東洋文庫版）

前崎信次（1903-83）と池田修（1933年生まれ）によって、「千夜一夜物語」アラビア語原本からの唯一の日本語訳が仕上げられた。明治時代以降、日本におけるすべての「千夜一夜物語」の翻訳はヨーロッパ語語訳経由でなされてきた。戦後にになってしばらく経ってようやく、前崎信次による翻訳のアラビア語原本からの直接訳が徐々に出版され、1966年から1992年という長期間をかけて、前崎信次と池田修がこの訳を完成させた。

前崎は、底本としアラビア語原本にカルカッタ第二版を挙げているが、そのほか、ブーラーク版、ブレラクラ版、そしてヨーロッパ語語訳による翻訳（特にドイツ語のレトマン版）にも依頼している。

前崎信次は東京帝国大学の卒業送別会の時、すでに「千夜一夜物語」に関心を持ち、アラビア語原本から監訳する希望を述べていた。その後、翻訳を決意した前崎は、アラビア語原本版とヨーロッパ語語訳による各翻訳書、参考資料を用いて、翻訳作業に取り掛かった。1966年7月、訳者62歳の時に第1巻を出版し、以後足掛け16年間をかけて、第12巻までを訳し続けた。前崎の死後の1985年には、遺稿に基づいた別巻「アラジンとアリババ」も出版されており、第5巻まで順調に、ほぼ半年に1冊の割合で刊行していたが、第6巻との間に4年間の空白がある。

前崎の死後、その訳業を引き継いだのが、池田修である。池田は、1987年に第13巻を出し、1992年には第18巻をと、6巻を足掛け8年で完結させている。

杉田明郎が指摘したように、前崎訳『アラビアン・ナイト』をみると、三つの問題が浮かんでくる。第1は、底本の決定についての問題である。前崎は、底本として選んだテキストにカルカッタ第二版を挙げているが、カルカッタ第二版には、意味を取りにくい段落が多く、実際には読者に適当であるブーラーク版やベイルート版の訳を採用していたのである。

第二に、訳文における読者の加筆や脱略の問題がある。前崎は、訳書第1巻の「まえがき」で、「一読一読と勝手に増減することを避けている」と述べているが、実際には原語の付加や、不注意による語句の訳し忘れが今見られ、しかも票面的な箇所を省略している。例えば、前崎は「大臣ヌールッディーンとシャムスゥッディーンの物語」における息子のハサーン・ヌールッディーンが従妹と性交した場面を第一巻から省略したが、第二巻で付したことがある。

第三に、翻訳に際し、先行するヨーロッパ諸語語訳、特にリトマス訳に引かされ、その訳語を踏襲したり、原典にない語句を付加する結果になったりする場合が多くあった。それでも、前崎の『アラビアン・ナイト』は、アントワーヌ・ガルマンからエドワード・レインに至るヨーロッパの東洋学者たちの見解をそのまま踏襲した側面があった。

前崎の死後、その訳業を引き継いだ池田修は、大阪外国語大学教授、アラビア語学・文学の専門であり、その仕事に最も適した研究者であった。池田訳の特徴は、語学的に正確な解釈に基づいており、客観的・即物的な翻訳という点に見出される。前崎が文章の装飾性、各巻ごとに詳細な「あたがき」を付したのに対し、池田は寄り道をせず、何よりも全巻を訳し終えることにより、最大の目標を置いていたような興がある。

前崎・池田によるアラビア語原本千夜一夜物語からの翻訳版が活用され、新たな文学作品や教科書の制作、新たな中東世界のイメージ形成は、今後も推進されている。

明治時代の「千夜一夜物語」の日本語訳の底本は、ガラン版とその重訳、それにレイン版であった。つまり、日本人はヨーロッパ諸語語訳の翻訳を通して、千夜一夜物語を知ったのである。このような翻訳の結果、千夜一夜物語は、第二次世界大戦の戦前から戦後にかけて、日本における舞台芸術、映画、児童文学などのあらゆる分野で広範に普及し、児童文学としての「アラビアンナイト」の特色が影響を及ぼしていった。

戦前の日本では、千夜一夜物語のパルト版とマルドリス版が知識人に知られていたが、この
2版には、性的描写に関する加筆が多いという問題があった。そのため、芥川龍之介を初め多くの文学者や読者などは「千夜一夜物語」に好色文学のイメージを受け継いでいた。そして、このような性的描写の数多、この2版の自由な出版活動を妨げる要因となったりもした。

戦後にになると、この2版の日本語訳本は広く普及したため、文庫の間で「千夜一夜物語」に好色文学のイメージが広まっていった。要するに、戦前の児童文学として取り扱われた「千夜一夜物語」は、戦後に分かちられる大人向けの好色文学として知られるようになった。アラビア語の原典にはないエロを創作・加筆したパートン版とマルドリス版は、「千夜一夜物語」の原典から異質にして逸脱した部分を拡大させる結果となった。

一方、パートン版とマルドリス版は、英仏の一般読者に歓迎されて、その普及に大成功を収め、彼らの訳本はアラビア語版並みに歓迎され、そのまま出版された。従って、この2つの版に存在している官能的で猥褻表現の根拠が、原典自体の特徴だと考えられ、「ハーレム」「四人妻」といった決まり文句に代表される「官能的オリエンタル」という見方が強調された。

そしてこの見方は日本にも移され、千夜一夜物語における好色的で官能的オリエンタルといった西欧のステレオタイプを受容しただけではなく、日本数の伝統に結びついて肯定的にとらえられた。例えば、岩波文庫版の千夜一夜物語の表紙をみれば、全13巻の中で第4巻、第7巻及び第11巻以外は全て官能的な表紙であって、大場正也パートン版を通じて、イスラム・アラブ地域における「ハーレム」「四人妻」など、さらに官能的な風俗文学としての千夜一夜物語のイメージを受け継いだ。ただし、説話集が形式と内容の面で、アラブ世界の崇拝的な大衆文学であることは評価した。

確かに、アラビア語版原典の千夜一夜物語にも、性的描写は存在しているが、パートン版とマルドリス版は、さらに猥褻的な面を強調し、好色文学としての千夜一夜物語のイメージを強化させたのである。

こうしたパートン版とマルドリス版に依拠した、戦後の日本の千夜一夜物語の翻訳の特徴には、次の4点が指摘できる。

1. パートン版とマルドリス版が底本とされ、これに基づいて、日本語の訳者が徐々に刊行された。
2. 千夜一夜物語の好色文学のイメージが強調された。
3. パートン版とマルドリス版における挿入される部分はそのまま日本語話に踏襲された。
4. 愛描写や性的描写をふんだんに盛り込んだ、2版からの翻訳によって、それまで児童文学として受け入れられていた千夜一夜物語は、大人向けの好色文学へと変容した。

全体的にみれば、日本では、猥褻本・好色文としての千夜一夜物語版が現在に至るまで広く、較に流通している。戦後の日本作家たちも、桜、パートン版とマルドリス版の日本語訳を講じ、自身の作品にその視点から千夜一夜物語の要素を取り入れた面が見られる。

注
2) 大場正也「千夜一夜物語」に現れた性愛」解説。「パートン版千夜一夜物語」11河出書房、1966-1967年。p.316
3) パートン版の選集（1951年ボンネット・ブックスを配布した米国のP.H.ニューーバーは東洋に著者中には名入れされている。大場正也、前掲書、p.314）
4) 杉田英明「イスラムの文明論について」、「日本の中東研究論集」近現代の文化史1東京大学出版会、1965年。p.40。
7) G. Bachelder, La dialectique de la duree. "リズム分析、摂政の弁証法"掛川栄一郎、河出、1976年。p.185-87。
8) グアディバ前掲「千夜一夜物語」の多面性」pp.69-70。
9) 永井秀秀「開業花業」幕府物語」明刻社、1975年。
10) 井上健「新世界一大喜事」昭和4年、p.285。
12) 杉田英明「アラビアナイト」翻訳批評 明治前期日本への移植とその影響」外国語研究論集 東京大学大学院総合文化科学研究科、第4号、1999年、p.10。
13) 杉田英明「児童文学としてのアラビアナイト」大正・昭和前期を中心に「外国語研究紀要」東京大学教育学部、7-8合併号、2004年、p.14 杉谷代水「新書アラビヤナイト」昭和女子大学近代文学研究所「近代文学研究叢書」15巻、昭和女子大学出版会、1960年。p.365。399。新田義之「杉谷代水と児童文学」「比較文学研究」
115
リーチの脚注

44 大場 正次郎版 『即食 魚物語』 中国と日本 1968
45 前川 喜代男版 『アラビアン・ナイト』 丸喜出版 1968
46 田中 三千雄版 『即食 魚物語』 中国と日本 1968
47 Y. M. Gunsbury版 『Book of the Thousand Nights and a Night』 1903
48 R. Burton版 『Book of the Thousand Nights and a Night』 1903
49 B. Stocker版 『即食 魚物語』 中国と日本 1968
50 小林  pity N. 『アラビアン・ナイト』 1903
51 金子 聡子版 『即食 魚物語』 中国と日本 1968
52 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
53 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
54 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
55 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
56 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
57 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
58 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
59 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
60 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
61 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
62 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
63 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
64 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
65 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
66 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
67 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
68 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
69 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903
70 木村 栄雄版 『アラビアン・ナイト』 1903

あとがき

本稿は、私の博士論文の第1章を要約したものである 2011年4月、5月、長野県短期大学で各々研究員として博士論文最後の仕上げを行う、博士号を得た。授業に際し、自然が豊かな長野県の自然の研究条件を整えて下さった長野県短期大学の伊藤先生をはじめ、教職員の方々に心より感謝の意を表したい。